

民主青年新聞

DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

み | 明日の自分に会いに 看護師

「日の丸・君が代」強制すべきではない

6、7面

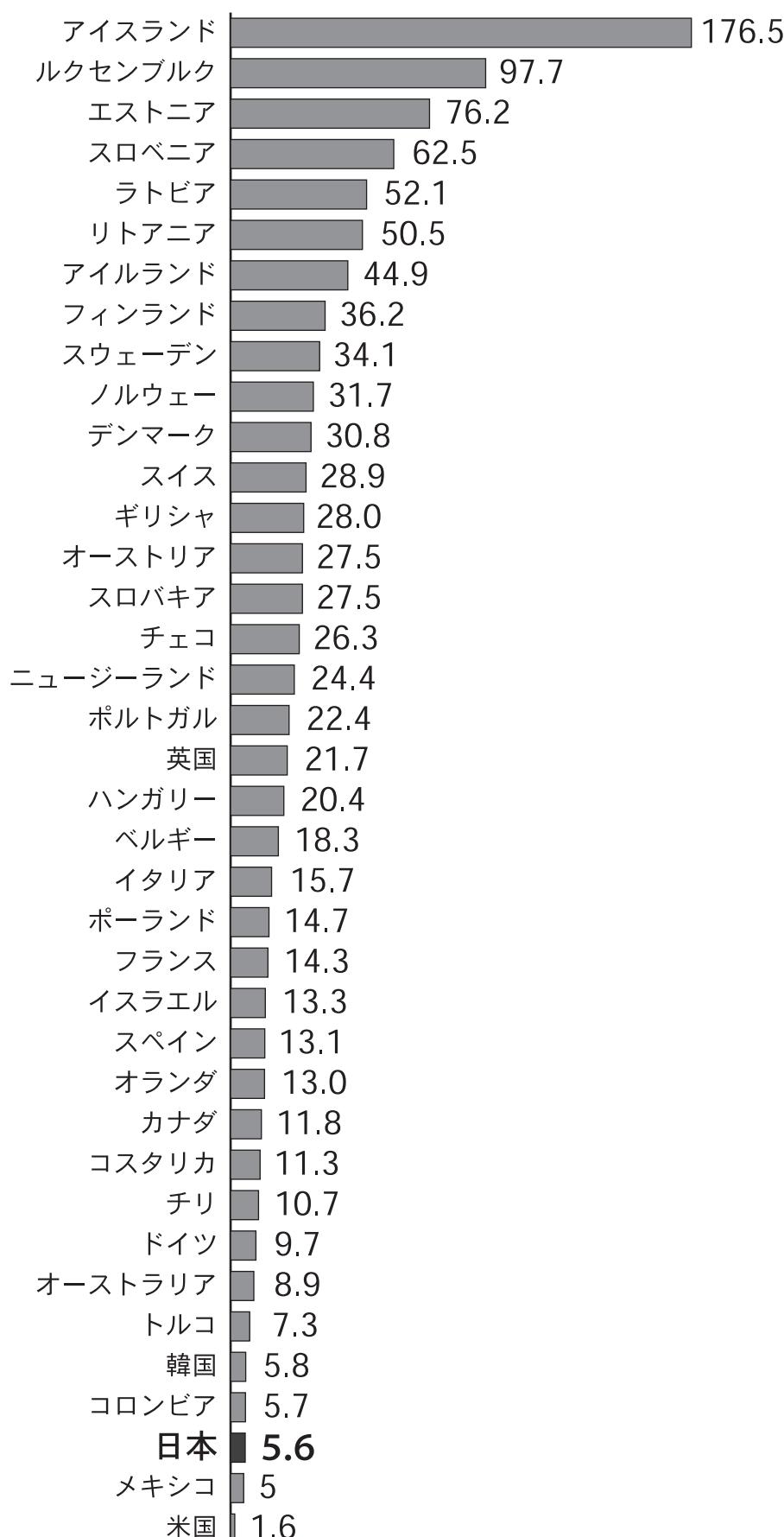
10、11面

次号は12月8日付になります

衆議院の比例定数削減を考える

OECD 加盟国の人団 100 万人あたりの議会の定数

第一院（下院）と第二院（上院）の合計（人）



自民党と日本維新の会は10月20日、連立政権の樹立で基本合意しました。その際、「衆議院の定数1割削減」を柱とした連立合意を結んだことが明らかになりました。果たして議員定数の削減は求められている政策なのでしょうか。10月29日、渋谷の青年に、いま政治に一番実現してほしいこと、維新の会が企業団体献金の禁止を取り下げたこと、その代わりに議員定数削減を掲げたことについてどう思うか聞きました。（街頭の青年は仮名、栗山さつき記者）

「一人暮らしで以前に比べて商品を買うときに消費税が高いと感じるようになつた」と話す飯田真さん（大学1年）に、政治にいま一番実現してほしいことを尋ねると「消費税を減税してほしい」と話しました。以前からインターネットを通じて自民党の裏金問題を知っていたという飯田さんは、「自民党は裏金問題について反省していると思いますか?」と尋ねると、「態度からして、反省しているんじゃないんじゃないかと思いますか?」と尋ねると、「物価高を実感するようになったし、消費税を

時間が過ぎるのをただただ待っているように感じる。それでいいのかなって困った」と話しました。

高橋さんは、維新の会が選挙で主張していた「企業・団体献金の全面禁止」を自民党との連立を組むために取り下げたことについて、「誠意がないと思う。取り下げた経緯について国民党に弁明することが必要だと困った」と話しました。衆院比例定数削減については、「维新や自民党は自分たち以外の人から意見をもらつた方

ん（大学2年）は、「この問題について、以前から報道がかなりされていてどうも気になっていた。お金の関係はちゃんとしてほしい」と話します。「今の民主党は反省しているとはあまり思えない。前回行わなかった参議院選挙の報道などを見ていても、裏金問題についての話があまりされていない」とも話しました。

維新が「企業・団体献金の廃止」を取り下げたことについて、加藤さんは「自民党として『企業・団体

比例定数削減について、OECD諸国との比較をしたグラフ（左図）を見た。加藤さんは「日本は議員数が結構少ないですね。これからさらに減らすんですね」と驚いたようすで話しました。

「アルバイトをしていいので、賃上げしてほしい。今の最低賃金にプラス300円くらいほしい」と話す青木俊さん（大学2年）は、「今の物価高に対しても賃金が追いついていない」と感じます。裏

では「よくない。不公平」という意見が最も多く、企業や団体だけの政治になってしまったのはやがて「来そういうものはやがていけない」と話しました。

「政治家って何をしていろ
う。本
つてそんなに数が必要な
っては
かな」という疑問が出され
ました。

裏金問題に厳しい批判

自民党の裏金問題では、「反省していない」という声が圧倒的に多くあります。また、維新の会が当初選挙でも掲げていた「企業・団体献金の全面禁止」を、自民党との連立を組むために取り下げたことについて「誠意がない」「信用できない」といった批判の声も多数寄せられました。衆議院の議員定数削減については、最初は「分かっていない」という声が多くありました。しかし、OECD加盟国における国民100万人あたりの議員数を比較することで「少ない」「これまで以上減らすのはよくなかった」という意見が出されました。

問題については「今までの言動を見ていたら（自民党は）反省したとは言えな「いい」とはっきり答えました。企業・団体献金については「よくない。不平等だし、企業や団体だけのための政治になってしまいます。本来そういうものはやってはいけない」と話しました。

一方、青木さんに衆議院の比例定数削減についてどう思うか聞いてみたところ、「減らしても問題ないと思う」との返答があり、「政治家って何をしているのかあまり分からない。議員ってそんなに数が必要かな」という疑問が出されました。

今回の取材で、青年から「金の全面禁止」や「医療いま政治に最もとりこんでほしい」と回答があったのは「消費税減税」や「賃上昇」でした。他にも「裏金問題の解決（企業・団体献金に挙げる青年は一人もいき